

## 人権教育研修講座第6講が開催されました



1月26(木)、「現代の子どもといじめ問題 ～大津いじめ事件から考える～」というテーマで龍谷大学の松浦善満教授をお招きし、研修会を開催しました。

松浦先生は、現在は大学で教鞭をとられていますが、かつては大阪の小学校でも教員をされていました。そして研究者となられてから取り組んでこられたことや大津市のいじめ事件の第三者調査委員会の委員をされていたというご経験から、いじめ問題や人間関係づくりについての深いご示唆をいただきました。

先生は、最初に、いじめ問題に取り組んでいく際のゴールは「ご機嫌クラスをつくろう！」ということであるとおっしゃいました。明るく笑顔の絶えない学級、楽しい学級であれば、いじめは起こらない、各学級がすべての子どもの居場所になることの大切さをお話しいただきました。

先生は、最初に、いじめ問題に取り組んでいく際のゴールは「ご機嫌クラスをつくろう！」ということであるとおっしゃいました。明るく笑顔の絶えない学級、楽しい学級であれば、いじめは起こらない、各学級がすべての子どもの居場所になることの大切さをお話しいただきました。

そして、いじめ問題について具体的に考えていくということで、「大河内清輝君の遺書」を参加者の中から5人の方たちに分担して読んでいただきました。(※この遺書の資料に関しては、講師の先生が教職員研修として有効であるとの判断で使用をされたものですが、本資料の取り扱いについては配慮願います。)そして、参加者全員が大河内君が自殺に至った Key-point を考え、参加者どうして交流し、発表するというワークショップ形式でおこないました。

遺書を読むという行為は参加者にとっても非常に心が痛むことであり、辛いことではありましたが、いじめについて真剣に取り組む意識を改めて確認できたのではないかと思います。

次に、人と人との関係性をよくしていくための取組みとして、ピアサポートの取組みをご紹介いただき、特に相手の話を「聴く」姿勢がとても重要であると教えていただきました。そして、今回の研修の場でもやってみようということで、参加者が隣どうして交代で相手の話を聴き合いました。松浦先生は「大切なのは、相手の話を、評価せずに聴くということ。」「聴き上手が話し上手になる。」と言われ、各学級でも取り入れてほしいと言われました。

最後に松浦先生から現代のいじめの特徴として、①異質排除型(小学校に多い)、②「仲良しグループ」内の拘束型(中学校に多い。大河内君の場合も、大津市の場合もこの型)、そして③ネット上でのいじめであるということを教えていただき、そのことを知った上で、日頃の子どもたちの様子を注意深く見守る必要があるという指摘をいただきました。

【コミュニケーションカードより】

「聞く」ではなく、「聴く」ことの大切さがわかりました。人の話をじっくり聴くことを学校生活の中で活用していきたいと思います。また、いじめは教師主導の指導だけではなく、子どもどうして考え、話し合い、行動していくことが大事であることがわかりました。

# 平成28年度 後期人権教育実践交流会 を開催しました！

2月23日（木）、後期人権教育実践交流会を開催しました。この交流会は各学校園が人権尊重の理念に立った教育を推進するため、今年度どのような人権教育を実践してきたかを交流し合い、互いに学び合うために開催しています。前期は違う校園種どうしが一つのグループになって実践の計画や昨年度の様子を交流しましたが、後期は同じ校園種のグループで交流を行いました。

まず交流会前に、人権教育課から以下の参考資料について情報提供をいたしました。

- 前期人権教育実践交流会で各校園から提出いただいた「人権教育実践の概要」の中から、外部機関との連携や人材活用、研修についてまとめたものを紹介。（校園名は載せていませんが、各校園の取組みを一覧にしました。）
- 人権教育課で新しく購入しましたDVD『光射す空へ』の紹介。（アニメでわかりやすく、同和問題、LGBT、若年性認知症について理解しやすい構成になっています。）
- リバティおおさかを活用する人権学習プラン（大阪府教育庁から出されている資料です。）
- 「人権教育教材集・資料」（大阪府教育庁が作成したCD）に新しく追加された6つの教材を紹介。

次にグループごとに交流会を行いました。どのグループも他校園の実践から学ぼうという意欲的な雰囲気にあふれ、10分間の休憩時間も惜しむかのように活発な交流が行われました。

その後は全体交流会を行い、各グループでの交流内容を代表の方から発表していただきました。

長時間の交流会にも関わらず、参加していただいた先生方からは「もっと交流の時間がほしかった。」という感想も聞かれ、白熱した交流会となりました。この交流会で得たことを次年度からの各校園の取組みに活かしていただきたいと思います。



【コミュニケーションカードより】

- 同じ取組みでも各園で工夫されていることが違い、勉強になりました。ゲストティーチャーについてもどんなふうにお呼びすればいいのかなども教えていただき、よかったです。子どもたちが自分も友だちも大切にできるようにするための支援のヒントをたくさんいただけて有意義な交流会でした。
- 小学校、中学校の先生方の取組みも全体の交流会で知ることができ、良い機会となりました。幼稚園でも取り入れられそうなことがあると思うので参考にさせていただきたいと思います。
- 自分の学校で話し合うだけでは、なかなか広がりが無いが、他校の話を聴くことで、気付かなかったことに気付いたり、やってみたいと思うような取組みに出会うことができた。